

保育科学生の学習効果と意欲 —教育実習事前指導における課題実習を通して—

長 根 利紀代

I はじめに

教育実習事前指導は、入学間もない入学オリエンテーションでスタートし、実習日程に合わせ1年半に渡って実施する。1年次前期には、教科「教育実習法」としてオリエンテーションと共に実習法の指導に当たる。教育実習は、他の保育所や施設実習よりも実習日程が早いことから、事前指導は、学生があまり保育について学習していない時期からのスタートとなる。

そこで、保育に関する基本的知識の概要、保育者を目指すものとして身につけるべき事柄を示し、実習生となるため、学生自らの生活態度や学習態度の見直しなどを指導し、事前指導の一環として「課題実習」を実施する。入学当初、学生の志望理由には、子ども好きであること、実習数や附属幼稚園があること、就職率がよいことその他、近年、中学・高校時代の保育現場訪問体験がきっかけになった場合も少なくない。また、学生の言動から保育科イコール「子どもに触れられる」という期待も大きい。近年ではますます少子化は進行し、学生の身近に子どもと触れ合う機会は少なく、さらに、学生自身の個人的・社会的な生活経験の不足や物事への価値観の変化、学習や生活に対する熱意や気力、根気、体力など、日常の学校生活における姿勢や態度にも指導の必要性が強まる傾向がある。こうした状況の中、社会ではますます保育者に対する様々な役割への期待が増し、特に、保護者の子育てへの問題点も浮上しマスコミを賑わしている。学生は、保育者となるばかりでなく、やがて、保護者になるべき対象であることをも念頭に置き、今、保育者養成への課題は山積している。このような学生の現状を把握し、2年間という限られた時間をいかに有効に活用して保育者養成の効果を高めるかは重要な研究テーマである。いくら指導内容を整えても、学生の心を捉え、本人の「やる気」を引き出せな

ければ意味がない。最近では、授業に熱心さを欠く行為や主体性、自発性、気力、体力の減少が見られることもあり、「幼児教育」の基本に習い、こうしたありのままの学生の姿から、その原因を探り、魅力ある授業、聴きたくなる授業を模索し、学生が達成感をもち、それが保育者としての成長につながるよう授業の充実を目指していきたい。

そこで、本研究では、先行研究から得た結果を基に計画した「教育実習法」における課題実習「保育現場体験学習」の実施結果を中心に、授業について学生にアンケートを実施し、その結果から、「学生の学習効果と意欲」について研究する。

II 研究の方法と内容

本授業では、附属幼稚園の協力を得て、毎年課題実習「絵本の読み聞かせ」を実施し、保育理解の糸口がもてるよう配慮してきた。しかし、今年度は、入学した1年生の姿から、学習条件を単純化し「保育現場体験学習」として、まずは「子どもたちと触れ合う」ことを目的に現場訪問の準備を進めた。その上で、本人のやる気と努力次第で次のステップとして自分なりの課題を設定して保育実践に挑戦することができることとし、自主性を引き出せるよう試みた。そこで、こうした学生の経験が、どのように学生の学習意欲と学習効果に関与したのかについて把握するため、「保育現場体験学習」前後のレポートと1年次の前期授業の最終日に、授業内に実施したアンケートを整理し考察する。授業は1年生を半数にして2コマに分けられているが、内一コマは、台風のため休校となったことから、アンケートは、1年生半数での実施となった。

対 象：14年度入学1年生

授業期間：14年4月～7月

実習現場：附属幼稚園（3園）

実習時間：基本的に40分程度で当日の園と学生

の授業の都合による

授業の課題：「保育現場体験学習」、「絵本の読み聞かせ」の研究レポートと実技テスト、自主活動（絵本の読み聞かせ・リズム遊び・手遊び・折り紙などの保育実践）、各実践結果報告レポート、授業内容をファイルに作成し提出

現場体験学習期間：14年5月第2週～7月第2週

アンケート実施日：14年7月

在学生数（5月1日現在）：A－51名 B－51名
C－49名 D－50名

有効枚数：97枚（1年生半数）

「課題実習」に関する授業の流れ：

- ①授業で学んだ基本的知識についての小テストの結果により現場訪問順番決定
- ②「絵本の読み聞かせ」に関するレポートの提出及び実技指導とテスト（合格者から現場実践「絵本の読み聞かせ」）
- ③自主活動（リズム遊び・手遊び・折り紙）に関するレポートを提出し合格者から現場実践
- ④現場訪問に関する心得の指導と事前の面接
- ⑤実践結果報告提出

授業における「保育現場体験学習」の目的：

- 1、実際に子どもと触れ合い関わりをもつ
- 2、子どもの姿や遊びの観察
- 3、附属幼稚園の見学

アンケート内容：

- ①以前に保育現場を訪問したことがあるか（時期・目的・主な活動・全体的な印象）
- ②「教育実習法」における「保育現場体験学習」について（体験したもの・感想）
- ③保育科学生としての自己評価（評価と理由）
 - ・「保育者」を目指す意欲
 - ・今後の自分に必要だと思うこと
 - ・高校時代と今の自分を比べての感想
 - ・身近な乳幼児との接触機会
 - ・保育者としての自分の適性
 - ・自分自身の成長
 - ・授業に対する感想及び今後へ望むこと

評価——5（非常にある）・4（まあまあある）・3（普通）・2（あまりない）・1（ほとんどない）・0（全くない）・分からない

Ⅲ 結果と考察

1、学生の経験と子ども環境

①入学前の保育現場体験

質問「以前に保育現場を訪問したことがあるか」では、回答者97名中「はい」と答えたのは78名、「いいえ」は19名で、「はい」と答えた学生の内、訪問時が中学時代16名（20.5%）、高校時代39名（50.0%）、中・高共が19名（24.3%）、その他4名（5.1%）となる（図1）。の目的は、主に「職場体験学習、ボランティア」で、活動は子どもとの遊びを中心にして保育活動に参加し、「子どもがかわいい、なついてくれて楽しかった、保育者は大変そうだが、元気で楽しそうだった」と感想を述べている。この箇所です「今思えば間違った関わり方をしていた」と述べている学生が「4名」いることに注目したい（表1）。

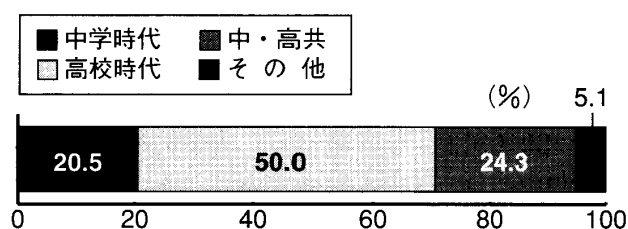


図1 入学前の保育現場体験

②日常生活における現在の子どもの環境

質問「身近に幼児がいたり触れたりする機会」では、5段階評価で「非常に多い」とする「5」をつけた学生と「4」・「3」をつけた学生とを合わせると54名で55.7%が触れ合えると答えているが、「2」・「1」とつけた機会の少ない学生が28%いることに加え「0」とした全く機会のない学生が12.4%もあり、その機会も「近所の子、偶然」となっていることで40.4%が機会に恵まれない現実があることが分かる。（表2、表3）

2、授業における「体験学習」について

①小テスト及び現場訪問結果について

授業において、「保育現場体験学習」に行くためには小テストで80点以上の成績で合格することが必要であり、成績順で訪問の順番が決まる。テストは同じ問題で3回まで繰り返すが授業の進行に基づいて答えるべき内容が多くなる。また、

表1 入学前の保育現場体験

(人)

主な目的		全体的な印象	
職場体験学習	23	保育に関するもの	
子どもと関わるため	18	年齢によって全然違うことがわかった	6
ボランティア	9	今思えば間違った関わり方をしていた	4
経験したかったため	6	保育の仕事は大変	3
保育者になるため	3	自由遊びが主な遊びだった	2
学校行事、授業	3	体力的に大変そう	2
見学・観察	2	その他	8
その他	4	(保育者も元気で楽しそう、水遊びが多い、ゆっくり時間が流れていた、保育園は日常生活が主体、子どもの考えや興味等がわかった、子どもの成長に驚いた、自分の甥との発達の違い、障害児をまわりの子が助けながら生活していた)	
(施設、保育園実習、子どもの参観日、友達についていった)			
主な活動		子どもに関するもの	
自由遊び	44	元気	8
プール遊び	12	のびのびと好きな遊びを楽しんでいた	6
給食手伝い	11	可愛い	4
読み聞かせ	7	色々な子がいた	3
砂遊び	7	その他	6
昼寝	7	(パワフル、喧嘩が多い、グループがある、おとなしい、誰かが楽しそうにすると皆が寄ってくる、遊びに入れない子もいた)	
子どもが作った玩具で遊ぶ	6	自分自身に関するもの	
鬼ごっこ	5	楽しかった	12
水遊び	5	なついてくれた	5
担任の補助	5	保育の道しかないと思った	2
リズム遊び	4	何をしたらいいかわからなかった	2
夕涼み会	4	その他	7
折り紙	4	(自己紹介に困った、言葉が聞きとれない、はじめ相手にされない、叩く子がいた、子どもの発想に心打たれた、子どもをより好きになった、子どもと遊ぶだけで大変そう)	
シャボン玉	3		
一日過ごす	3		
紙芝居	3		
玩具遊び	3		
観察	2		
縄跳び	2		
持参した玩具で遊ぶ	2		
誕生会	2		
ゲーム遊び	2		
粘土	2		
外遊び	2		
その他	17		
参加実習			
絵描き			
ままごと			
遊具整備			
バス登園			
おやつ			
どろんこ			
ボール遊び			
固定遊具			
宝探し			
虫取り			
手遊び			
歌、かくれんぼ			
草取り、掃除等			

表2 日常における乳幼児との接触機会

機 会	5	4	3	2	1	0	無回答
人 数	9名	29名	17名	11名	18名	12名	1名

表3 日常において接触できる対象児

(人)

項 目	項 目
いとこ・親戚の子 26	偶然出会う子 1
知り合いの子 14	ボランティア 1
バイト先 13	病 院 1
家の近所の子 11	自分の子 1
家 族 3	習い事先 1
保育園のアルバイト 3	

活動計画には期間の制限があり実習できないこともあると告げた。当初、努力の不十分さが見られる学生や、学習の要領がつかめなかった学生も回を重ねるに連れ落ち着いて取り組めるようになった。そして、クラスメイトが合格し、実習日程が発表される、友人の氏名が書き出されるなど計画が現実のものとなり、経験者から感想を聞くことで取り組みに熱意が見受けられるようになった。実習は附属幼稚園3園でその園の実情に合わせて3～8人のグループになり訪問する。日程はあらかじめお願いしてあったが、保育の流れによっては学生による日時確認の電話の際、お断りいただくものとして、柔軟性のある計画を立てた。テストの結果、第1～3回目までの合格者と日程が決まった段階で、現場訪問のための心得や諸注意をプリントにして配布し、実習園への確認のための電話のかけ方などを指導した。さらに、訪問前日に面接を行うことを説明し、服装、髪型などを含む身だしなみやマナー、集合時間、ことば使い、態度などテストの成績だけでは保育者を目指すものとして子どもと関わることは出来ないことを具体的に経験するよう配慮した。こうした計画により、テストに合格すること、実習マナーを守ること、日程が決まっても実習園の都合で日程が伸びること、訪問はグループで行い、問題が生じたときは連帯責任をとることなどを明確にして細かく指導した。しかし、1年生は、入学間もないことや高校生気分が抜けておらず、短大に入学したことで羽を伸ばして楽しもうとする姿勢も見受けられたことから、段階を追って心構えが出来るよう配慮し、個々のペースを考慮して幅のある計画を心がけた。小テストは第三回目で何とか全員合格したが、現場に出る段階でマナーなどのルール違反があった学生や提出期限に無頓着で言われるまでやろうとしない学生、個人的な指導を繰り返してやっと最低レベルの課題をこなすなど、個人的に学習面・精神面のみならず、生活指導の面に時間のかかる学生が多いことが目立った。全員提出を課した「絵本の読み聞かせ」のレポート提出に関しては、あまりにのんきに構えている学生が多いので、期限を6月第1週に指定し、それ以後は受け取らない旨を告げたことにより多くの学生が駆け込みで提出した。そ

の際、「やりかけといてよかった」と言う声が多かった。しかし、クラスの雰囲気や友人に左右される傾向が強く周りに流される面が強いことから、早い時期に「保育者を目指すもの」という意識を明確にできる目標を示して指導する大切さを再確認した(表5・表6)。尚、全1年生中、2名がルール違反や条件不足、怪我などで不参加に終わった。また、「レポート」は6月第2週以降提出のものは自主活動に関するものであり、「現場体験」は「保育現場体験学習」の他「絵本の読み聞かせ」や「自主活動」などで現場を訪問した学生の人数である。したがって、現場訪問回数は学生によって異なる。(表4・5)

②全員参加の「保育現場体験学習」について

本課題に対する目的「子どもと触れ合う、附属幼稚園の見学、保育者の役割の観察」にそれぞれが「自分の学習目的」をあらかじめ設定して、訪問後、「学んだこと」と「感想文」をレポートにまとめることとした。そこでここでは4クラス全員のレポートを対象に研究した。「自分の目的」では、複数回答355回答のうちの35%が「子どもと関わりをもつ」を挙げ、一緒に遊ぶだけでなく「遊びを通して」学ぼうとしていたり、「仲間に入れないう子と関わる」や「長く会話を続ける」など保育に踏み込んだ視点が見られる。「子どもたちと保育者との関わり」は18.6%で「喧嘩への対応」や「子ども一人一人の感情の受け入れ方」などが見られる。「子どもたちの観察・理解」を上げたものは14.4%で子どもが「何をしたいのか、言いたいのか知る」などが示され、「年齢差と遊び」は7.9%で「言葉の表現や反応の違い」を上げ、「環境構成について」は5%で具体的な保育方法を意識した記述が見られる。また、「自分の援助、動きについて」の5.9%も「子どもから返事が返ってくるような聞き方、場面に応じた言葉がけ、保育者との

表4 小テスト結果 (人)

回数・ クラス	Aクラス	Bクラス	Cクラス	Dクラス
第1回	13	12	19	13
第2回	24	27	21	26
第3回	14	12	9	11

表5 「保育現場体験学習」に関するクラスごとの活動内容

(人)

期間・クラス		Aクラス		Bクラス		Cクラス		Dクラス	
		現場体験	レポート	現場体験	レポート	現場体験	レポート	現場体験	レポート
5	第2週	9	3	6		13		7	
	第3週	6		9	3	9	4	9	3
	第4週	7	8	8	3	6	11	10	4
6	第1週	10	38	5	42	11	30	8	29
	第2週	6		8	1	17	2	5	6
	第3週	7		10			1	3	6
	第4週	10		17		13		8	
7	第1週	4		7		5		8	
	第2週	1		1				10	

表6 保育現場体験学習の目的

(人)

自 分 の 目 的	
子どもと関わりを持つ 124 ・一緒に遊ぶ ・色々な年齢の子と接する ・子どもと遊ぶ楽しさを知る ・関わりを通して姿遊びを知る ・コミュニケーションを図る (名前を覚える、本を読む、言葉を掛ける) ・仲間に入れない子と関わる ・長く会話を続ける 子どもたちと保育者との関わり 66 ・触れ合い方 ・どう言葉掛けをしているか ・喧嘩の対応の仕方 ・指導の仕方 ・個々の要求や感情をどう受け入れ対応しているか ・動 き 子どもたちの観察・理解 51 ・どんな遊びをしているか ・どう過ごしているか ・流行の遊びとは ・何をしたいのか、言いたいのかを知る ・子ども同士の関わり ・3歳児の集団での様子 ・性 格 年齢の違いと遊びの関係 28 ・同じ言葉を掛けた反応の違い ・言葉の表現の違い	年齢の違いと遊びの関係 28 ・同じ言葉を掛けて反応の違い ・言葉の表現の違い 自分のマナー態度に気をつける 24 ・大きい声で挨拶する ・笑顔で接する ・言葉使い、話し方に注意する ・子どもにけがをさせないようにする 自分の援助、動きについて 21 ・どのように反応するか ・返事が返ってくるような聞き方 ・叩かれた時の対応 ・自分と保育者の援助の違い ・場面に応じた言葉がけ 環境構成について 18 ・保育室・遊具・道具・掲示・園庭 授業について 14 ・講義の再確認、実践 そ の 他 12 ・幼稚園がどのような所かを知る ・一日の流れの観察 ・保育者の立場を体験する ・自分自身を見つめ直す ・かつて自分が過ごした園との違い ・行事はどのようなことをするか ・昔と今の遊びの違い ・自分に対する接し方

表7 保育現場体験学習で学んだこと

(人)

学 んだ こと			
子どもについて	58	自分自身について	24
・ 3、3、5歳の発達の違い		・ 自分の未熟さ	
・ 遊びの繰り返し		・ 挨拶の大切さ	
・ 同じ年齢でも体格が違う		・ 環境設定	
・ 様々な子がいる		・ もっと勉強をする	
・ 大人と違う価値観		・ 子どもの力を引き出す	
・ よく見聞きしている		援 助	
・ 発想の豊かさ		・ わからないことの発見	
・ 言葉だけでなく、色々な方法でサインを出している		・ 喧嘩の時の対応	
・ 子ども同士の関わり合い (ルールを決めて遊びだす)		・ 一度に大勢の子どもが話し掛けてきた時の対応	
・ 誉めると何度でもする		・ 援助をした時の反応	
保育者の子どもへの援助の仕方	26	・ 言葉掛けの難しさ	24
・ 玩具の取り合い		子どもとの接し方	20
・ 子どもへの指導		・ 触れ合ってみる	
・ 片付けの場面		・ 自分が全部するのではなく、子どもが自分でやれるようにすること	
・ 言葉がけ		・ 個々や場面によって、接し方が違うこと	
・ 年齢や子どもの発達に応じて、言葉使いや言葉以外のコミュニケーションの仕方を変える		・ 名前を覚えると子どもと近づく	
保育者について	28	・ 共感する	
・ 子どもに対しての話し方		・ 誉 め る	
・ 子どもの目線での接し方		・ 相槌の大切さ	
・ 安全に遊べる様な心配り		そ の 他	3
・ 声の大きさ		・ 遊びの必要性	
・ 動 き		・ 人と触れ合うことの大切さ	
・ 周りへの注意力		・ 縦割り保育がある	
・ 仕事の大変さ			
・ 体力がいる			

援助の違い」などが見られ、「授業について」の3.9%では「講義での理論の確認」に目を向けている。さらに、「その他」の中には「自分自身を見つめ直す」意志も見受けられ、(表6)。「学んだこと」では、31.3%が「子どもについて」で年齢による子どもの発達差、体格、発想、遊び方、個性に気づき、14.3%が「保育者の援助の仕方」を玩具、指導法、片付け、言葉がけ、コミュニケーションを通して学んでいる。また、15.4%が「保育者について」は話し方、目線、体力、動き、仕事の大変さなどの他、「心配り、注意力」など目に見えないところにも注目している。そして、「自分自身について」13.2%では、自分の未熟さ、挨拶の大切さ、勉強の必要性と方向性、具体的な援助法の模索、子ども

との具体的な関わり方などに気づいている。特に目立ったのは、13.2%の「言葉がけの難しさ」に対する実感をもったことであろう、(表7)。「感想」では、子どもと関わった感動や喜び、楽しさを味わい、子どもの能力のすばらしさの再発見をしている。また、保育者としての初歩的な視点も「援助」として捉え現場の保育者の姿を通して学んでいる。そして、数々の「不安」や「困ったこと」を通して学生なりに「次への課題」を見出し「積極性、体力、知識、勉強法、実践力、危険への配慮」など実感をもって意欲的に捉え保育への視野も広がってきている。特に、「勉強になった」や「勉強を生かすことが出来た」など「理論の具体化、理論の大切さ」を認識し、「勉強不足」、「出来

表8 保育現場体験学習の感想

(人)

項 目	項 目
次への課題 55	言葉がけについて 18
・積極的に動くこと	・どのように掛けてよいか、わからなかった
・体力をつける	・言葉掛けの必要性を感じた
・クラス全員と話す	勉強不足 17
・危険の無いよう周りを見る	疲 れ た 16
・対処の仕方を身に付ける	周りの様子や保育者の細かい様子が見られな
・知識を深める	かった 10
・言葉がけ	保育者が責任あることを感じた 7
・物の名前を知っておく	子どもの心を知りたい 7
・実践力をつける(手遊び、読み聞かせ)	不安になった 7
子どもたちと関わって楽しかった 46	体力がいる 6
はじめは不安だったけど、子どもと触れ合う	自分の欠点が見れた
ことで自然に関れた 25	・話し方が早い
保育者になりたい気持ちが増した 24	・注意力の無さ
保育者の対応、援助が勉強になった 24	・周りが見られないこと
・環境設定	「先生」と言われてもおかしくない人になりたい 5
・保育者の立ち位置	勉強を生かすことが出来た 5
・個々を把握した援助	子どもと触れ合えて幸せ 5
・周りを見ている	うまく出来なかった 5
・触れ合い方	・教科書上では分かっていても現場ではうまく
・言葉掛け	いかなかった
・遊びを通しての援助(マナー、ルール)	・言葉が出なくなった
・時には叱る事も必要	・すばやく行動に移すことが出来なかった
子どもたちについて 20	・排泄援助の失敗
・思いやりがある子が多い	・子どもとあまり関われなかった
・嘘、偽りがきかない	保育者と自分の接し方の違い 4
・一瞬一瞬違う表情が見れた	日常態度の改め 4
・遊びの中でたくさんのことを学んでいる	・言葉使いなど
・想像力がすごい	「先生」と呼ばれたが自覚が足りなかった 3
・パワーのすごさを感じた	わからないことだらけ 3
・月齢の差を感じる事が出来た	もう少し遊びたかった 3
・年齢によって遊びや、やりたいことが違う	子どもたちに助けられた 2
・三歳児の歩幅の小ささ	自分の成長があった 2
・子どもの手のあたたかさ	現場体験が出来て嬉しかった 2
・笑顔のすばらしさ	この体験を生かして実践できるようにする 1
困ったこと 20	保育者という仕事の楽しさ 1
・子どもに叩かれてうまく対応出来なかった	信頼関係が出来た 1
・片づけをしない子への対処の仕方	自閉症について学んでいく 1
・保育室に入らない子への対処の仕方	子どもと共に学び、成長していきたい 1
・子どもと接する難しさ(言葉が聞き取れなかった)	臨機応変の対応が必要 1
・一度にたくさんの子が話し掛けてきたとき	現場が見えた 1
・子どもと遊んでいるときほかの子から遊びに誘われた	
・どこまでが危険でそうでないのか	

なかった」、「わからないことだらけ」などが実感出来たことの意義は大きい。さらに、「自分の欠点が見えた」、言葉遣いなど「日常態度の改め」、先生と呼ばれ「自覚不足」などが日常生活におけるマナーのみならず、保育者として子ども側に立った視点も現れている（表8）。

③「保教育実習法」における保育現場体験学習について

②に加え、絵本の読み聞かせや自主活動（折り

紙、リズム遊び、手遊び）の実践により、学生によって体験が異なることを踏まえ、全体的な感想を質問した。ここでの自由記述は「子ども理解に関するもの」「自分自身に関するもの」「保育理解に関するもの」に整理した。「子ども理解に関するもの」では、子どもに関して「大人で賢い、目の輝きが真剣、強くて弱い」などの印象を述べ、「記憶力のすごさ、気持ちを目や雰囲気ですべてく、動作にメッセージが込められている」などを

表9 保育現場体験学習全体の感想

(人)

子ども理解に関するもの		自分自身に関するもの		保育理解に関するもの	
子どもの印象	24	自分自身の未熟さ	25	保育の難しさ	49
大人で賢い、素直、無邪気、元 気、笑顔や表情がいい、目の輝 き真剣さ、しっかりしている、 個性が強い、かわいい、子ども は強くて弱い者、よく気がつ く、体力がある		どう子どもと関わったらいい か分からない、喧嘩を止められ なかった、子どもを惹きつける 力がない、初めの関わりが分か らなかった、思い通りに動けな い、出来ない所がある、一度に 大勢に話しかけられ理解出来 なかった、勉強不足		言葉掛け、導入、子どもとの関 わり、子どもの気持ち考え方の 理解、惹きつけ方、自分の思い 通りにならない、一人の子と関 わると他児と関われない、全体 を見る、最初のきっかけ作り、 遊びが探せない子への援助、喧 嘩や叩かれたときなどの対処 の仕方、大勢での遊び、数人に 話しかけられたときの対処の 仕方、危険の範囲、すべての子 の要求に応える	
気がついたこと	21	子どもが慕ってくれたうれしさ	12	学んだこと	26
記憶力のすごさ、出来る事は何 でもする、物事をよく見えて いる、気持ちを目や雰囲気です べてくる、小さくて軽い、一つ 一つの動作にも色々なメッセ ージがある、一人一人の違い、大 人を惹きつけ関わりたがる、男 女の行動の違い、喧嘩を自分た ちで解決していた、五歳児は初 対面でも挨拶してくれた、仲間 意識がある、どんな遊びが好き か遊び方等がわかった		先生と呼ばれた、自分の顔を描 いてくれた、「また来てね」と 言ってくれた、女の子がチュ ウしてくれた、子どもの方か ら積極的に関わってくれた		予想した子どもの反応の違い、 保育者の子どもへの援助、個々 に応じた言葉掛けを変える、安 全面に気をつける、年齢によ って友達関係が変化する、子ども 中心に考える、広範囲に目を向 ける大切さ、名前を呼んであげ る大切さ、自分の接し方で子ど もの反応が変化する	
年齢や月例での発達の違い	11	気づかされたこと	11	今後の課題	12
色々な子がいる	10	姿勢の悪さ、苦手な虫が自然に 触れた、体力がいる、先生と呼 ばれる責任、改めて自分が先生 になること、教わることが多 い、子どもに心が読まれてい る、子どもの輝く目を見て疲れ が飛ぶ、保育者のすごさ		実技の習得、喧嘩の対応、個々 に応じた関わり方、行動を生か す援助、子どもの理解、観察力 をつける、	
独占欲が強い、自己中心的、好 奇心旺盛、甘えたがる、独自性 が強い		楽しかった	6	保育者が一人でクラスを見る	
		自分の心構え	3	すごさ	2
		子ども中心に考える、自然に表 情を変えられるようにする、き ちんとした身なりでやさしく 敬意を持って接する		障害者も一緒に見ていた	
		子どもに叩かれ愛情表現を体験	2	そ の 他	4
		勉強した分楽しいと思えず向い てないと感じた	2	(設備のよさ、指導案を書く参 考になった、片付けが自然の 流れで行われていた、入れな い子に声をかけ読み聞かせに 参加させられた)	
		子どもと一緒に遊んだ	2		
		そ の 他	4		
		(また実習に行きたい、子どもが 大好き、危険な事が起きて怖 かった、あまり遊べなかった)			

学んでいる。「自分自身に関するもの」では、適切な対応が出来なかったことなどを実感し自らの未熟さを見つめると共に「子どもに自分の心を読まれている、子どもの輝く目を見て疲れがとんだ」ことや「先生」と呼ばれ、子どもから親しんでくれたことで保育者の喜びを味わい、知らず知らずの内に「苦手な虫を自然に触れた」自分に驚いている。「保育理解に関するもの」では「保育の難しさ」を「最初のきっかけづくり、危険の範囲、年齢や発達による子どもの人間関係の変化」など、細かく体験的に学び「今後の課題」を見出している。さらに、「保育者の対応、援助」のあり方について実際の保育を通し「片づけが自然な流れで行われていた、保育者一人でクラスを見るすご

さ、指導案を書く参考になった」ことなど、具体的な保育者の活動に敬意の目を向け、モデルとして今後の目標を得られたことも認められる。(表9)

3、「保育科学生としての自己点検」(無記名、「理由」は複数回答)

①「保育者」を目指す意欲

「意欲」が「ある」とした学生は、評価「5・4・3」を選択したものをあわせると92.8%になる。しかし「あまりない」とした2%に加え、「分からない」とした5.2%の学生が1年生前期の終わりの段階にいるということが認められる(表10)。その「理由」としては、意欲のあるものは「ずっとなり

表10 保育者を目指す意欲の評価

評 価	5	4	3	2	1	0	分からない
人 数	56名	31名	3名	2名	0名	0名	5名

表11 保育者を目指す意欲の感想

(人)

項 目		項 目	
ずっとなりたかった夢	18	周りに流されて進路を決めた気がする	1
勉強不足	15	子どもたちを幸せに出来る保育者にはなれないか	
子どもが好き	11	もしれない	1
意欲がわく	9	保育者になれるか不安	1
自信を無くすことがある	5	実際に子どもたちと接して楽しかった	1
今は良く分からない	5	授業が身についていない	1
保育者になりたい気持ちが大きくなった	5	子どもたちから学べる	1
子どもについてもっと知りたい	4	子どもと接すると勉強していることが実感できる	1
やりがいのある職業だから	4	子どもに幸せになって欲しい	1
大変である	3	子どもを育てる立場で・大切だと思う	1
ついていけない気がする	2	忙しさが将来役に立つと考えた	1
頑張りたい	2	実技を現場で活かしたい	1
次の目標が出てくる	2	子どもと接したことで保育者というものがリアル	
子どもに関する仕事につきたい	2	に感じる事が出来たから	1
自分を見つめ直せる	2	子どもたちを変えていきたい	1
やっていけるのか心配だが、自分の働きかけで	2	子どもを保育することに興味を持ち始めた	1
子どもが変わるすごさ	2	違う職業にも興味がある	1
やる気がある	1	自分に出来ることを精一杯やりたい	1
葛藤がある	1	愛を伝えたい	1
疲れる	1	周りを見ると差を感じ不安	1
子どもを育てていきたい	1	子どもと関わってみたい	1
この授業を受けたから	1	目標が見え・子どものことがわかってきた	1
自分の努力が足りない	1	子どもの輝く目・笑顔を見たい	1
		向いてない気がする	1

たかった夢、子どもが好き」が多く、評価が低くなるほど「勉強不足、力不足、不安、大変さ」が目立つ。しかし、「やりがいのある職業、子どもについてもっと知りたい、実技を現場で生かしたい、目標が見えた、自分で出来ることを精一杯やりたい」、そして、「子どもと接したことで保育者と言うものがリアルに感じられた、子どもと接すると勉強していることが実感できる」という強い意識が意欲的な姿勢を引き出していることが分かる（表11）。

②保育者になるために今後自分に必要だと思うこと

複数回答267の内、まず挙げられるのが「保育能力」に関する回答で47.2%である。その中では、「実技の向上」で12.3%で、「子どもの心を読む力」10.7%、そして、「観察力、言葉がけ、指導案、環境設定」などが並ぶ。次には「生活態度」に関するもの31.5%で「自分の性格を直す」や「自分の生活習慣を変える」がそれぞれ13.1%、また、「努力・自信・精神力」を挙げ、数は多くはないが、「言葉遣い、偏食、忍耐、気力、責任感、判断力」、さらには、「字を丁寧に書く」など、自分自身の内面的なもの、生活の見直しなどに目を向けている。

「学力」に関するものは9.7%で、そのうち「知識」が84.6%を占めるが、レポートや実習日誌でしばしば取り上げられる「文章の書き方」にも言及している。残りは「体力」に関するもの11.6%だが、「体力、心身の健康」に続いて「ダイエット」も記述されている。ここでの意見は全体的に前向きで、今後の成長を期待させるが、こうした気づきも一過性で終わる懸念が否定できない。従って、継続的な指導が望まれる（表12）。

③高校時代と今の自分を比べての感想

ここでの回答はおおむねプラス面の変化を示しており、複数回答99の内の83.8%を占めている。その主なものは「性格、生活面の変化」を挙げ、「何に対しても頑張ろうとするようになった」や「非常識なことに気をつける」姿勢が現れている。日常の生活態度での「椅子の座り方、食べ方、自然な挨拶、やる前に善悪の確認、甘えが取れた」、特に「提出物を出すようになった」は記憶に残る。また、保育者をめざすものとしての自覚も生まれ「町で見かける子ども」を意識したり、「昔は保育をなめていた」など保育への姿勢が変化したことが示されている。さらに、「先生の厳しさで変わった」とする学生が複数いることは今後の指導上大

表12 保育者になるため必要なこと

(人)

項 目	項 目	項 目
実技の向上 32	声を出す 3	必要なことすべて 1
子どもの心を読む力 28	子どもへのやさしさ 3	発 想 力 1
知 識 22	環境設定 2	どんな保育をしていくべきか 1
体 力 18	自分の言葉使い 2	バランス感 1
自分の性格を直す 1	偏食を直す 2	ダイエット 1
全体を見る 1	子どもへの態度 2	常 識 1
自分の生活習慣を整える 1	子どもと接すること 2	文章の書き方 1
努 力 9	実 力 2	自己学習 1
色々な表情が出せるようにする 9	魅力ある人になる 2	自分の思っていること 1
積極的に行動する 8	子どもに目をやる 2	を言葉にする力 1
自信を持つ 8	指 導 案 2	自分自身の向上 1
観 察 力 8	役立つことを覚える 1	言った事への責任 1
言葉がけ 7	実習先の先生から学ぶ 1	考える力 1
心身の健康 7	子どもから学ぶ 1	気 力 1
子どもや保護者の接し方 6	忍 耐 1	慎重に行動する 1
すべての感覚を働かせる 6	字を丁寧に書く 1	復 習 1
精神力を強くする 6	やる 気 1	授業を積極的に受ける 1
元 気 5	自 覚 1	判 断 力 1
経 験 5	いくつも音を聞ける様にする 1	失敗を生かす 1

切に受け止めたいが、その反面、以前と変わらない10.1%やマイナス面が見られるようになった学生も6.1%おり、「悪い習慣のまま、体が疲れている、自分にきびしく出来ない、勉強が難しくやる気が減少」なども忘れてはならない(表13)。

④保育者としての自分の適性

「ある」と答えた学生は評価「5・4・3」を総合し54.6%である。「あまりない」と答えた評価「2」以下では9.3%だが、「分からない」と答えた学生は35.1%になった(表14)。その「理由」として、「これからのがんばり次第」18.6%と前向きなものほかに、「分からないことがたくさんある、子どもが好きなだけでは無理」と学習上の不

安と共に、「感情の落差のコントロールができない、性格が大雑把、だらしがない、落ち着きがない、なおす点が多い」など性格上の問題点を捉えている。こうしてみると、「評価」では前向きな結果が出ているが「理由」では自分が見えてきたことや保育理解が進んできたことによると見られる多くの「不安」を抱えているのが分かる。しかし、学生自らこうした点に気づけたことは大きな意味がありここから成長できる大切なポイントと言えることから、今後どう支援していくか指導のあり方が問われることとなる(表15)。

⑤自分自身の成長

④で「自分の適性」に対して「分からない」が

表13 高校時代と今の自分を比べての感想

(人)

項 目	項 目
性格の変化 12	笑顔は大切 1
何に対しても頑張ろうとするようになった・お	今一番大切なのは何か考える 1
気楽が無くなった・「非常識」と思ったことを自	自分の将来を考えるようになった 1
分で気をつけるようになった	子どものことを考える 11
意味のある生活が出来ている 8	町で見かけると目で追ってしまう・何歳児なの
毎日やることを計画している・充実した生活・	かなど観察するようになった
色々なことを真剣に考えるようになった	保育に対する考え方が変わってきた 9
責任感が出てきた 7	昔は保育をなめていた・保育者の見方・子ども
保育者になろうとする責任感・自分で責任を取	のことが分かってあげられる
ろうとする・子どもたちの上に立つ責任感	授業の取り組み方 2
目標に向かって頑張っている 6	先生の厳しさに変わった
昔は何の目的もなく過ごしていたが、目標に向	やりたいことが分かったので、保育者になれるよ
かっているのが時間が過ぎるのが早い・いっそ	う頑張っていく 1
う努力しようとする所	提出物を出すようになった 1
夢が現実に近い 5	変化なし 6
保育者になりたい気持ちが強まった	高校時代が厳しかったので慣れている
世界が広がった 5	悪い生活習慣のまま 2
周りを見られるようになった・子どもの知識が	だらだらした生活
増えた	立派な先生になれるか不安 2
生活態度を改めている 4	勉強をするようになったが同時に不安も出て
椅子の座り方、食べ方など注意している・挨拶	きた・昔のほうが夢に自信があり現実に近づく
が自然と出るようになってきた・やって良いか	につれ不安になってくる
悪いか確かめるようになった	自分に厳しく出来ないまま 1
甘えがとれた 3	勉強が忙しくて毎日の楽しさが感じられなくなっ
昔も頑張っていたが、それでは通用しない・今	ている 1
は厳しく気持ちの入れ方が変わった	運動量が減った 1
考え方の変化 3	勉強が難しく、やる気がなくなってきた 1
痛い目をみて・友達や先生に支えられ考え方を	毎日忙しくて体が疲れている 1
変えられるようになった・自分で考えられるよ	相変わらずゆとりがもてず忙しい生活をいている 1
うになった	

表 14 保育者としての自分の適性の評価

評 価	5	4	3	2	1	0	分からない	無回答
人 数	4 名	19 名	30 名	8 名	0 名	1 名	34 名	1 名

表 15 保育者としての自分の評価の理由

(人)

項 目	項 目
これからの頑張り次第	18
分からない	6
子どもと関われるのが好き	6
勉強していく上で分からない	5
自信が無い	5
元 気	5
分からないことがたくさんあるから	3
子どもが好きだけでは無理	3
自信が出てきた	3
勉強がわかってきた	3
ビデオを見ていても解説されないと気づかない	3
保育者になれるか不安	3
子どもの接し方がうまくいかない	2
実際に保育者としてどうなるか分からない	2
感情の落差のコントロールが出来ない	2
子どもが寄ってきてくれる	2
まとめることが下手	2
責任の重大さを知って不安	1
周りが分かっているのに、自分は分からないとき	1
本当にやりたいのか分からない	1
悩むから	1
自分に甘く、怠け癖がある	1
あまり成長していない	1
動機が不純	1
先が見えない	1
言葉掛けが出来ない	1
全体が見られない	1
絶対とは思えない	1
保育者になりたい気持ちが強い	1
まだ直す点が多い	1
向いていない	1
健 康	1
周りから言われる	1
歌が好き	1
あ る	1
体を動かすのが好き	1
性格がおおざっぱで不安	1
自己満足になっている	1
実習を通して分かっていく	1
どう成長していけるか分からない	1
これからもっと身に付けないといけないこと	1
がたくさんある	1
実技習得が遅いから	1
だらしが無い	1
対応できる時と出来ない時がある	1
落ち着きが無い	1
自分のことが出来ない	1
現実が見れていない	1

多かったものの、ここでは評価「5・4・3」で「成長した」が80.4%いる。「あまりしていない」8.2%の学生のほか、「分からない」は11.3%となる(表16)。「理由」として、最も多い「勉強が身についた」の14%をはじめ「子どもを見る目が出来た」ことを挙げている学生が12.9%いる。また、「積極的に勉強している、保育者への気持ちが強まった、足らない部分が分かった」や「考え方、性格、生活」が変わったこと、「頭を使っている、ノートが取れるようになってきた、自分から変わっていった」など素朴だが確かな変化を成長と捉えていることが分かる。ただ、「自分の成長が分からない、気づけない」学生には、こちらから手を差し伸べて時間をかけた個別的で具体的な指導が

この時期だからこそ必要であるとする(表17)。

⑥授業に対する感想及び今後へ望むこと

ここでは、複数回答118の内、「頑張っていた」22%が目立ち、「楽しかった」14.4%、「現場に役立つことばかり」の11%に加え、「もっといろいろなことを教えてほしい、習ったことを身につけていく、ためになった、たくさん学べた、自分の力になるものがいっぱいあった」に続き「もっと実技を学びたかった、もっといろいろなことを教えてほしい」など積極的な学習意欲や向上心も見受けられる。特に、「先生は厳しかったが自分たちのためと思うと嬉しかった、厳しい授業がいい、程よい緊張感」は「達成感がある、やりがいがあった」などを土台にして、きちんとした学習

表 16 自分自身の成長の評価

評 価	5	4	3	2	1	0	分からない
人 数	11 名	51 名	16 名	6 名	2 名	0 名	11 名

表 17 自分自身の成長の理由

(人)

項 目	項 目
勉強が身についた	13
子どもを見る眼がかわった	12
前向きになってきている	9
考 え 方 がかわった	7
性格がかわってきた	7
成長した	6
理解できているのか分からない	4
まだ成長できると思う	4
積極的に勉強している	3
保育者になろうとした気持ちが強まった	3
生活が変わった	3
分からない	2
自分の成長に気づけない	2
知識だけでなく実践できるか不安	2
変わった	2
足らない部分が分かった	2
重大さが分かった	1
3 ヶ月間何もしていなかったわけではない	1
やる気が起こらない	1
自分の性格上成長が遅い	1
成長したと思うときもあれば、昔は出来ていたのにと思うことがある	1
甘く見ている自分がいる	1
今までだめな生活を送ってきた事に気づけた	1
頭を使っている	1
色々な気持ちになった	1
周りの友達がもっと成長している	1
失敗して実習に行けなかった	1
保育についての考え方が変わった	1
やらないと思っても、行動に表れない	1
努力と忍耐が足らない	1
自分から変わっていつているから	1
ノートを取れるようになってきた	1
子どもと上手に関われるようになった	1

表 18 授業への感想及び今後へ望むこと

(人)

項 目	項 目
頑張っていきたい	26
楽しかった	17
現場に役立つことばかり	13
忙しくて大変な授業だった	12
もっと実技を学びたかった	10
授業で習ったことを身につけていく	9
実技が覚えられた	8
ためになった	8
たくさん学べた	3
自分の足りないところが分かった	3
保育観がわかってきた	3
もっと色々なことを教えて欲しい	3
自分の力になるものがいっぱいあった	3
迷惑をかけた	3
人間としてもたくさん教えてもらった	3
指導案などやれない部分がある	2
厳しい授業がいい	2
好 き	2
程よい緊張感	2
自信が無い	2
もっと自信をつけたい	2
不安になった	2
先生は厳しかったが、自分たちのため思うと嬉しかった	2
やりがいがあった	2
やめたいと思ったが、やる気が出てきた	1
達成感がある	1
疲 れ た	1

の姿勢で指導の意図を見えない部分も汲み取ってくれたことが分かる。さらに、「迷惑をかけた、人間としてもたくさん教えてもらった、止めたいと思ったがやる気が出てきた」などは保育者を目指すものとしての大切な学習姿勢が引き出した

と考える。こうした学生の陰で、「自信がない、自信をつけたい、疲れた、不安になった」学生に注目し、ここまで授業を進める中で何か出来ることはなかったか見直し、今後の授業を修正したい(表 18)。

Ⅳ ま と め

入学以前に抱いていた「子どもたちの先生」への憧れやイメージは、専門的な勉強を半期受けた段階で様々な学生の変化となって現れている。それは、高校までの生活や経験によってそれぞれ違いがあるのは当然だが、一様に保育者という「職業」の厳しさと重大さに驚き戸惑う姿である。また、入学に際して抱いていた「短大生」という生活が、実際の本学保育科での生活とのギャップにも同様の想いを感じさせ、特に、次々と課題をこなさねばならなかった本授業は、高校時代の生活観が抜けきらない中で、様々な葛藤や不安を乗り越えねばならなかった。しかし、その支えになったのは何をおいても「実際に子どもたちと触れ合えた経験」に他ならない。また、入学前とは違う新たな目で見える先輩保育者の華麗とも思える働きぶりに、一層の憧れと不安を募らせている。こうした現状を抱えながら、大学の学問と保育現場をつなぐ学習方法にも自らの気づきや手応えを実感し学習意欲や学習課題も見出している頼もしい姿があった。「保育科学生としての自己点検」では、92.8%の学生が「保育者を目指す意欲がある」と答え、「保育者になるために今後自分に必要だと思うこと」で、保育能力や技術の向上のみならず、自らの精神力や体力、日常の生活態度の見直しにも取り組もうとする意欲が現れている。こ

れらもまた、子どもたちに「先生」と呼ばれた感激と戸惑いを通して芽生えた「保育者を目指すもの」という自覚と責任感から引き出されたものである。こうした研究結果から、学生の学習意欲と学習効果を引き出すためには、入学後、出来るだけ早い時期に「保育者を目指すもの」としての生活の基本を整え、実際に学生が最も求めている「子どもと触れ合う」機会と「先生」と呼ばれる憧れの実体験を用意することが非常に重要であると考ええる。その実体験を通して「保育者」としての自分を見直し、学習の目標を明確にもつことが出来ることから、学生の主体性も育てることが出来る。そこでは、「高校時代と今の自分を比べての感想」の「先生の厳しさで変わった」や「授業に対する感想及び今後へ望むこと」に見られる「厳しかったが自分たちのためと思うと嬉しかった」のように、授業や教員の指導の厳しささえ受け入れ、授業進行上の躓きも「迷惑をかけた。人間として教えられた」、「やめたいと思ったがやる気が出てきた」などの姿勢も保育現場の実体験があったればこそ培われた内面的成長の姿であろう。しかし、こうした学生の成長をさらに高めるためには、一人一人の不安や悩みに時期を捉えた適切で細やかな援助の必要性を実感したことから、今後の検討課題としたい。

A Study on Results and Motive of the Students for Kindergarten Teachers — Through the Teaching for Students of before Practice —

Nagane, Rikiyo*

保育者を目指す学生の成長には、早期に憧れの現場体験の機会を用意し、学生が学習への明確な目的と経験をもつことで、大学での教科の意義を理解し、学習への主体的姿勢と意欲を引き出すことが学習効果を高め保育者養成における学生の資質向上につながると考える。しかし、実習開始は基礎的学習を経て実施すべきものであることから、事前指導の中で学生の成長の時期にふさわしい機会をつくることが求められる。そこで、附属幼稚園の協力を得て「課題実習」を実施し、そこでのレポートや授業終了時のアンケートにより、「課題実習」結果を考察した。そして、課題実習「保育現場体験学習」の経験によって、学生の学習効果と意欲が引き出され学生の人格形成の上にも効果がみられたことが考察された。しかし、それと同時にそれぞれに「不安」を抱えている学生も多く、学生の今後の成長を促すためには、学生生活全体を視野に入れた上で、以前に増して、一人一人に適した援助が時期を捉えて行われることの重要性を再確認した。

キーワード：実習指導, 学習意欲, 学習効果, 早期現場体験, 生活態度の見直し